



PRESS RELEASE

令和8年4月6日
琉球大学

沖縄近海で発見された深海生物が「世界の新種トップ10」に選出

— 琉球大学などの研究チームが発見した発光する新種が

国際データベース WoRMS により選定 —

琉球大学などの研究チームが沖縄県南大東島沖の深海で発見した新種 ウファガリアカサンゴスナギンチャク *Corallizoanthus aureus* が、国際的海洋生物データベース WoRMS (World Register of Marine Species) が選ぶ「Top Ten Marine Species of 2025」に選出されました。

- 本種は沖縄県南大東島沖の深海洞窟に生息する、生物発光するスナギンチャク（イソギンチャクの仲間）である。
- 毎年記載される数千種の海洋生物の中から、世界中の分類学者たちによって本種が「2025年の海洋生物トップ10」に選出された。
- この成果は、沖縄周辺海域が世界的にも極めて独特で重要な海洋生物多様性を持つ地域であることを示している。

【問い合わせ先】

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 教授
REIMER James Davis
TEL: 098-895-8542, 090-7294-9279



PRESS RELEASE

<発表概要>

琉球大学理学部のライマー・ジェイムズ・デイビス教授、AIST の喜瀬や海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の藤原らを含む国際研究チームが記載した新種 ウフアガリアカサンゴスナギンチャク *Corallizoanthus aureus* が、海洋生物の国際的データベースである国際海洋生物目録 (World Register of Marine Species, 略称 WoRMS) が選ぶ「Top Ten Marine Species of 2025」 に選出されました。

このランキングは、毎年世界中で新たに報告される数千種の海洋生物の中から、科学的・生態学的に特に注目される 10 種を専門家が選定するものです。

今回選ばれた ウフアガリアカサンゴスナギンチャクは、沖縄県南大東島沖の深海洞窟環境で発見された新種のスナギンチャクの仲間で、刺激を受けると緑色に発光する特徴を持ちます。今回の選出は、沖縄近海の深海が世界的にもまだ知られていない独特の生物多様性を持つ重要な海域であることを示す成果です。

研究成果は学術誌 Royal Society Open Science に掲載されています。

WoRMS Top Ten Marine Species とは

国際海洋生物目録 (WoRMS) は、世界の海洋生物の分類情報をまとめる国際データベースで、世界中の研究者によって運営されています。

WoRMS では毎年、分類学者を称える日である **Taxonomist Appreciation Day (3月19日)** に合わせ、前年に記載された海洋生物の新種の中から、特に興味深く重要な 10 種を「Top Ten Marine Species」として発表しています。

この選出は、新種の科学的重要性だけでなく、生態的特徴や発見のユニークさを基準として行われます。

<研究背景と内容>

研究チームは、JAMSTEC が主導する深海研究プロジェクト **D-ARK (Deep-sea Archaic Refugia in Karst)** の一環として、遠隔操作型無人探査機 (ROV) を用いて南大東島周辺の深海洞窟を調査しました。その結果、サンゴ科の一種 *Pleurocorallium inutile* に付着して生活するウフアガリアカサンゴスナギンチャクを発見し、新種記載されました。本種は刺激を受けると緑色の光 (波長 約 515 nm) を発する生物発光能力を持つことが確認されています。この発光は捕食者への防御などの役割を持つ可能性があると考えられています。

<成果の意義>

本研究で記載された新種 ウフアガリアカサンゴスナギンチャク が、国際的な海洋生物データベース **WoRMS (World Register of Marine Species)** による「Top Ten Marine



PRESS RELEASE

「Species of 2025」に選出されたことは、沖縄近海の海洋生物多様性の重要性を世界的に示す成果です。ライマー教授は「この選出は、沖縄周辺海域が世界的にも独自性の高い海洋生物多様性を持つことを示す重要な成果です。同時に、未解明の生物相が多く残されていることから、今後の継続的な研究と保全の必要性を強く示しています」と述べています。毎年世界中で数千種の海洋生物の新種が報告される中で、特に注目すべき10種として選ばれることは、今回の発見が科学的にも非常に意義深いものであることを示しています。沖縄周辺の海域は、サンゴ礁から深海まで多様な環境を持ち、独自性の高い生物相が存在することで知られています。本研究は、沖縄の深海にもまだ多くの未知の生物が存在する可能性を示すとともに、この地域の海洋生物多様性の価値を改めて示すものです。

また、本種は刺激に応じて発光する特徴を持ち、刺胞動物における生物発光の進化や生態的役割を理解するうえでも重要な知見を提供します。

<論文情報>

雑誌名：Royal Society Open Science

論文タイトル：Glow in the D-ARK: a new bioluminescent species of *Corallizoanthus* (Anthozoa: Zoantharia: Parazoanthidae) from southern Japan

著者：Hiroki Kise, Manabu Bessho-Uehara, Kenta C.F. Kondo, Kiko Shimoji, Shohei Ito, Shinji Tsuchida, Yoshihiro Fujiwara, James Reimer

DOI 番号：<https://doi.org/10.1098/rsos.250890>

<問い合わせ先>

【研究内容について】

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系

教授 REIMER James Davis

TEL：098-895-8542, 090-7294-9279

E-mail：jreimer@cs.u-ryukyu.ac.jp

【報道対応について】

琉球大学総務部総務課広報係

TEL：098-895-8157

FAX：098-895-8013

E-mail：kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp